

過去の大規模災害の一覧

災害名	場所	被害状況	被害の概要	ペット対応内容	備考
1995年（平成7年） 阪神・淡路大震災	震度 7：神戸市、芦屋市、西宮市、 宝塚市、北淡町、一宮町、津名町の 一部 震度 6：神戸、洲本	人的被害（人）：死者6,402 住宅被害（棟）：全壊103,823　半壊136,524 一部損壊240,347	阪神・淡路大震災は、平成 7 年 1 月17 日（火） 5 時 46 分に発生し、震源地は淡路島北部（北緯34 度36 分 東経135 度03 分）、震源の深さは約14km で、規模は マグニチュード7.3 と推定されている。	およそ9,300頭（犬・4,300頭、猫・5,000頭）の動物 が被災。兵庫県獣医師会を中心とした動物救援本部 は、述べ21,769名のボランティア参加者の協力を得 て、被災動物1,556頭を救護した。	特定非常 災害※
2000年（平成12年） 有珠山噴火災害	伊達市、虻田町、壮瞥町、洞爺村	主な被害 土木被害：64カ所 農業被害：89戸 林業被害：36,006ha 住宅被害：850棟　など	有珠山は平成12年3 月31 日に噴火、最大で15,815 人 が避難指示・勧告の対象となったものの、噴火前に迅 速な避難が行われたこと等により人的被害はなかつ た。7 月28 日には、202世帯378 名を除き避難指示・ 勧告は解除された。	北海道獣医師会は「動物救援センター」及び「動物診 療所」を解説し、述べ942名の獣医師、述べ4,553名の ボランティアが、合計348頭を保護収容した。この救 援事業においては、住民が避難する際には必ず動物を 同行させるべき、という教訓が残された。	
2000年（平成12年） 三宅島噴火災害	東京都三宅村	人的被害（人）：死者 0　負傷者 0	平成12 年 6 月26 日に気象庁が緊急火山情報を発表し た。8月14日に最大規模の噴火。8月18日火砕流の 発生。神着地区、坪田地区に噴煙柱が崩れて流れ 下った。低温火砕流と呼ばれる。雄山の噴火活動 により、人的被害はなかった。9月2日全島避難指 示（2～4 日で避難実施）。平成17年2月1日避難 指示解除。	全島民避難時、島民が同行した動物は74頭。東京都獣 医師会を中心に各動物愛護団体で構成された動物救護 本部は、地域防災計画に基づき東京都が建設した動物 収容センターの運営し、保護収容したほか、開業獣医 師の分散収容をおこなった。官民一体となった動物救 護事例となる。	
2004年（平成16年） 新潟県中越地震	新潟県中越地方	人的被害（人）：死者68　負傷者4,795 住宅被害（棟）：全壊3,175　半壊11,643 一部損壊104,510	平成16 年10 月23 日、最大震度 7 を記録した新潟県中 越地震は、避難者約10 万人、住宅損壊約12 万棟など の直接被害、風評被害や上越新幹線の不通による観光 影響など、大きな経済的影響を及ぼした。山古志村 （現長岡市）を中心とした地域では地震により多くの 箇所で崩壊や地すべりが発生し、芋川流域では大規模 な河道閉塞が発生して東竹沢地区などで人家が水没す るなどの被害が生じた。	震災後の10月27日に、新潟県中越地震動物救済仮本部 が、緊急災害時動物救済本部と新潟県により立ち上げ られた。新潟県中越地震動物救済仮本部には環境省、 農林水産省もオブザーバーとして参画し、助言、調整 をおこなった。仮本部では動物救済のための救援物資 の搬送、義援金窓口の開設を行い、現地の動物救護活 動を支援した。	特定非常 災害※

災害名	場所	被害状況	被害の概要	ペット対応内容	備考
2007年（平成19年） 新潟県中越沖地震	新潟県柏崎市等10市町村	人的被害（人）：死者15　負傷者2,316 住宅被害（棟）：全壊1,331　半壊5,704 一部損壊36,209	平成19年7月16日　新潟県沖を震源とする地震が発生、最大震度 6 強、規模はマグニチュード6.8。この地震で中心市街地の個人住宅など建築物に被害があったほか、東京電力（株）の柏崎刈羽原子力発電所にも影響がみられた。		震災後の7月17日に、新潟県と関係団体により新潟県中越沖地震動物救済本部が立ち上げられた。本部では、県内の動物保護管理センターでの被災動物の一時預かり、飼育に関する相談受付、支援物資の
2011年（平成23年） 東日本大震災	震度 7：宮城県北部 震度 6 強：宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部 震度 6 弱：岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県北	人的被害（人）：死者18,703　負傷者6,220 行方不明者2,674 住宅被害（棟）：全壊126,574　半壊272,302	平成23 年 3 月11 日に発生、震源及び規模は三陸沖（北緯38.06度、東経142.51度、牡鹿半島の東南東130 km付近）、深さ24km、モーメントマグニチュード Mw9.0。同日15時30分、北海道太平洋沿岸（3～6m）、青森県太平洋沿岸（8m）、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里・外房（以上すべて10m以上）、伊豆諸島（4m）に津波警報（大津波）を発表した。	被災地では地方自治体や地元獣医師会が中心となつて、各地に現地動物救護本部を立ち上げ、被災ペットの救護活動を実施した。一方、旧緊急災害時動物救援本部が、人材、物資、資金の面から支援したほか、被災地以外の自治体、民間団体、企業等多方面から支援した。	特定非常災害*
2016年（平成28年） 熊本地震	震度 7 熊本県 益城町宮園 震度 6 弱 熊本県： 熊本市、玉名市、宇城市、宇城市、西原村、嘉島町	人的被害（人）：死者137　負傷者2,479 住宅被害（棟）：全壊8,329　半壊31,692 一部損壊143,651	平成28年4月14日と4月16日の2回、布田川・日奈久（ふたがわ・ひなぐ）断層帯を震源とする震度 7 の地震が発生した。前震と本震があり、同じ震源地で震度 7 以上を2回観測するのは観測史上初のこと。「熊本地震」とは「4 月14 日以降に発生した熊本県を中心とする一連の地震活動」を指す。	各被災地で自治体や地元獣医師会が中心となつて被災動物の救護にあたった。特に益城町、熊本市では被害が甚大で飼養環境が確保できず、多くの避難者から預かりの要望があったため、益城町及び熊本市の避難所で無料一時預かりシステムの整備や施設の設置を実施した。	特定非常災害*

災害名	場所	被害状況	被害の概要	ペット対応内容	備考
2018年（平成30年） 西日本豪雨	広島県、岡山県、愛媛県、他府県	人的被害（人）：死者237　負傷者432 住宅被害（棟）：全壊6,767 半壊・一部破損15,2342 浸水28,469	平成30年7月豪雨により、広島県では、広島市や呉市、坂町等において同時多発的に土石流等が発生した。岡山県では、高梁川の支流が本流の高梁川に合流する際に水がせき止められる「バックウォーター現象」等で水位が高い状態が長時間継続したこと等により堤防決壊が生じ、倉敷市真備町を中心として大規模な浸水被害が発生した。 愛媛県では、施設能力を上回る規模の大雨による河川氾濫や、宇和島市吉田町などにおいて土石流等が発生し、浄水場等が土砂災害により破壊された。	岡山県動物救護本部では、わんにゃんデイケアハウスの開設、診療車で巡回診療、被災動物の獣医師会員病院での一時預かりなどに対応した。 岡山県総社市庁舎等で同伴避難（避難所内同居）の事例があった一方、避難所でのペットの屋内飼養禁止の指示により、飼い主が豪雨と強風の中避難所を退去した事例のほか、酷暑により犬種によっては屋外係留飼養が困難になる事例があった。 また、ペット飼養可のみなし仮設が用意されず、避難所から移れないという相談があったことが報告されている。	特定非常災害※
2019年（令和元年）台 風19号		人的被害（人）：死者84　負傷者77 住宅被害（棟）：全壊1,621　半壊4,504 一部破損3,503 床上浸水1,681 床下浸水5,290	7月3日から8日にかけて、梅雨前線が華中から九州付近を通過して東日本にのびてほとんど停滞した。前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日は記録的な大雨となった。また、岐阜県周辺では6日から激しい雨が断続的に降り、7日から8日にかけて記録的な大雨となった。その後も前線は本州付近に停滞し特に13日から14日にかけては中国地方を中心に、26日から29日にかけては東北地方を中心に大雨となった。7月3日から7月31日までの総降水量は、長野県や高知県の多い所で2,000ミリを超えたところがあり、九州南部、九州北部地方、東海地方、及び東北地方の多くの地点で、24、48、72時間降水量が観測史上1位の値を超えた。	同行避難事例は、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県でお200～300頭が報告されたが、頭数を把握していない自治体も多かった。ペットがいるため避難所に行かず、飼い主が死亡した事例もあった。 この災害では各自治体において十分な対応が検討されず、ペット用の避難スペース等を確保した避難所が限られ、ペットと飼い主の避難所への避難が進まなかったことが報告されている。	特定非常災害※
2020年（令和2年）7月 豪雨	岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・栃木県・群馬県・神奈川県・新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県	人的被害（人）：死者84　負傷者82 住宅被害（棟）：全壊1,627 半壊4,535・一部破損2,116 床上浸水1,74 床下浸水6,266	2020年（令和2年）7月3日から7月31日にかけて、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨が発生した。総降水量は多いところで2,000ミリを超え、九州南部、九州北部、東海地方、東北地方の多くの地点で24時間、48時間、72時間の降水量が観測史上一位の値を超え、多くの川で氾濫が起こった。 特に被害の大きかった熊本県では県内を流れる球磨川水系が、八代市、芦北町、球磨村、人吉市、相良村の計13か所で氾濫・決壊し、約1,060ヘクタールが浸水した。	熊本県では、7月4日に被災ペットに関する相談窓口を各保健所及び健康危機管理課に設置したほか、迷子の犬や猫に関する情報を県動物愛護ホームページへ掲載した。また、避難所における被災ペットと同行避難状況の調査を開始、避難所でのペット飼養に関するチラシの配布、県十医師会に協力要請し、同行避難者へのケージの貸出、フード支援等を行った。	特定非常災害※

災害名	場所	被害状況	被害の概要	ペット対応内容	備考
2024年（令和6年）能登半島地震	新潟県・富山県・石川県・福井県	人的被害（人）：死者341　　負傷者1,334 住宅被害（棟）：全壊6,273 半壊・一部破損120,380 浸水25	令和6年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmを震源として、M7.6の地震(最大震度7)が発生し、石川県輪島市及び志賀町で震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6強や6弱の揺れを観測した。このM7.6の地震の前後にも規模の大きな地震が発生し、強い揺れが長く続き、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度6強~1を観測した。この地震により家屋の倒壊、停電、断水など、広範囲ライフラインの被害が報告され、特に大きな被害を受けた石川県能登地方では、半島という地形的な特徴により交通網の寸断が救援・復旧活動の大きな妨げとなった。能登半島北部では幹線道路が通行困難になったことで、多くの孤立地区が発生した。	石川県で同行避難が確認された避難所は56か所であり、犬が43頭、ネコが22頭確認された。石川県では、県と県獣医師会による現地動物対策本部が設置され、獣医師による巡回診療、動物病院やシェルターでのペットの一時預かりなど、被災動物の救護にあたった。また、環境省では自治体からの要請をうけ、避難所敷地内にトレーラーハウスを設置し、ペットの飼養環境を整備した	特定非常災害※

※特定非常災害
著しく異常かつ激甚な非常災害。死者・行方不明者・負傷者・避難者などの罹災者および住宅の倒壊などの被害が多数発生し、交通やライフラインが広範囲にわたって途絶し、これによって地域全体の日常生活や業務環境が破壊された状態になるような災害。特定非常災害特別措置法に基づいて指定される。